記事詳細

記事一覧に戻る

訓練生が業者と意見交換（2016/01/08 5面）

魅力など語り合う / 建協人材育成対策室

県建設業協会人材育成対策室は7日、鹿児島市の㈱コルテーヌで訓練生（求職者）と建設業者との意見交換会（職業人講話）を実施。訓練生が日々訓練しているCADを通して、建設業に就職する際に必要とされる人材や心構え、魅力などについて意見を交わした。

同日は、設計製図のCAD操作を学習している訓練生12人を対象に、㈱大進の山内隆弘常務、㈱重留建設の重留巧治社長、㈱鹿児島建設新聞の前原和彦報道部長がそれぞれ講話。

山内常務は、2006年に発生した北薩豪雨災害で被災したさつま町において担当した河川改修事業を一例に、河川や橋梁のCAD図面事例なども提示。また、最近主流なりつつある3Dモデリングについても「今後、オペレーターとしての需要が見込まれる。頑張ってほしい」と促した。

続いて、重留社長は「建築の魅力と楽しさ」と題して解説。現場における品質管理や工程管理などでのCADの必要性を説き、「施工図は手書きよりCADが主流。訓練している皆さんは有利に立つ」と話した。また、「建築は自分の作品が地図に残り、地域のシンボルになる」と訴え、「同じ建物がないからこそやりがいがある。ぜひ目指してほしい」と呼び掛けた。

前原部長は住宅市場の現状と今後の見通しについて説き、「消費税増税や少子高齢化など現状は厳しいが、建築CADを活用できる場はある」と語りかけた。

同対策室の岩本正参与は「訓練生は今回の意見交換会を通して知り得たこと、気付いたことも多いはず。一人でも多くの訓練生が建設産業に就職してほしい」と話した。

[更新：2016/01/08 No：691719]